

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋豊田駅前ビル	階数	地上14F
建設地	愛知県豊田市西町6丁目7番2、7番3	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	208 人
気候区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年1月25日
敷地面積	634 m <sup>2</sup>	作成者	小林 和弘
建築面積	228 m <sup>2</sup>	確認日	2017年1月25日
延床面積	2,660 m <sup>2</sup>	確認者	小林 和弘



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 81%

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.0

Q2 サービス性能: 2.7

Q3 室外環境(敷地内): 2.5

LR1 エネルギー: 3.6

LR2 資源・マテリアル: 2.8

LR3 敷地外環境: 3.0

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.7	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.8	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています  
モリトキ 2017

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>										
1 生物環境の保全と創出	独自③	2.0	0.30							2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	3.0	0.40							3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.5	0.30							2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50							
		3.0	0.50							
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.86	4.0	0.30						4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20						3.0
3 設備システムの高効率化			4.0	0.30						4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		設備機器の省エネルギー性能は省エネ基準レベルとした	4.0	1.00						
集合住宅の評価(3c)										
<b>4 効率的運用</b>										
集合住宅以外の評価			3.0	0.20						3.0
4.1 モニタリング			3.0	1.00						
4.2 運用管理体制			3.0	0.50						
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
<b>1 水資源保護</b>										
1.1 節水			3.2	0.15						3.2
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.40						
1 雨水利用システム導入の有無			3.3	0.60						
2 雑排水等利用システム導入の有無		雑排水の再利用有り	3.0	0.67						
			4.0	0.33						
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>										
2.1 材料使用量の削減			2.7	0.63						2.7
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.07						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	3.0	0.24						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20						
2.5 持続可能な森林から産出された木材			1.0	0.20						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上材を容易に分別可能とした	2.0	0.05						
			4.0	0.24						
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>										
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.22						3.0
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.32						
1 消火剤			3.0	0.68						
2 発泡剤(断熱材等)			-	-						
3 冷媒			3.0	0.50						
			3.0	0.50						
<b>LR3 敷地外環境</b>										
<b>1 地球温暖化への配慮</b>										
1 ライフサイクルCO2概算値:81%	①	ライフサイクルCO2概算値:81%	3.7	0.33						3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>										
2.1 大気汚染防止			2.4	0.33						2.4
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.25						
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.50						
1 雨水排水負荷低減	独自		2.6	0.25						
2 汚水処理負荷抑制			-	-						
3 交通負荷抑制	独自		3.0	0.33						
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33						
			2.0	0.33						
<b>3 周辺環境への配慮</b>										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.33						3.0
1 騒音	独自		3.0	0.40						
2 振動	独自		3.0	1.00						
3 悪臭			-	-						
2 風害、砂塵、日照障害の抑制			-	-						
1 風害の抑制			3.0	0.40						
2 砂塵の抑制			3.0	0.70						
3 日照障害の抑制			-	-						
			3.0	0.30						
<b>3.3 光害の抑制</b>										
1 屋外照明及び屋内照明のつらねる光への対策			3.0	0.20						
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.70						
			3.0	0.30						

**重点項目スコアシート**  
 (仮称)名古屋豊田市駅前ビル

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:24.3%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)名古屋豊田市駅前

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー性を高め、温熱環境負荷の低減を図る。
Q1 室内環境	シックハウス対策等、宿泊者の快適性に配慮した内装とする。
Q2 サービス性能	設備各種配管は耐用年数の高い材質を採用する。
Q3 室外環境(敷地内)	緑化ブロック等を採用し、出来る限り緑の量の確保に配慮した。
LR1 エネルギー	省エネルギー基準をクリアする省エネ設備を採用する。
LR2 資源・マテリアル	景観に配慮し、屋上設備機器を広告物内に設置した。
LR3 敷地外環境	省エネルギー基準クリアを目指した断熱性能、設備省エネ性能とすることで、CO2低減を図る。
その他	特になし